

乳幼児精神発達質問紙から見る保育内容の検討

○木戸 啓子
(戸川児童福祉会 早島保育園)

山口 茂嘉
(岡山大学教育学部)

I 目 的

文部科学省(1997)による「時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方に関する調査協力者会議」¹⁾で、最近の女性の就労率の増加や核家族化の進行を背景に3年保育を希望する保護者が増加傾向にあることが議論された。また、保育園の待機児童解消の一つとして、幼稚園での3年保育を積極的に進める自治体も増加傾向にある²⁾。

3年保育の内容については、幼稚園教育要領の中で、「幼児期の発達の特性を踏まえ、入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって」³⁾教育課程を編成するものとされている。しかし、「入園から修了に至るまで」の幅については、3歳児の指導に関して、第3章指導計画の中で、「特に、3歳児の入園については、家庭との連携を密にし、生活のリズムや安全面に十分注意すること」⁴⁾とし、4～5歳児の保育とは異なる配慮をするように明記されている。

このような幼稚園教育の現状において、一口に「入園から修了に至るまで」といっても、その年限には3年の幅があり、3～5歳児の時期は、身体の発育や精神の発達においてそれぞれ発達の課題が大きく異なる。そのため、指導方法や指導形態などについて、それぞれの成長段階を意識したきめ細やかな配慮が必要と思われる。しかし、幼稚園教育要領においては、各領域のねらいや内容を発達段階ごとにどのような活動に重点をおいて指導を進めるかまでは示されていないのが現状である。

そこで、本研究では、具体的な活動に関する子どもの発達の過程を知ることにより、指導計画作成の基礎資料を得ることを目的としている。

II 方 法

1) 調査方法

子どもの発達の様子を探るため「乳幼児精神発達質問紙(3～7才まで)」を使用し、運動・探索・生活習慣・社会・言語の5つの分野について、保護者による個別評価を行った。母親による記入の際は、家庭での子どもの生活の様子から、明らかにできる場合に○印、明らかにできない場合には×印をつけ、できたりできなかったりする場合に△印の3段階で記入しても

らった。その回答に基づいて、分析を進めた。

2) 調査対象および回収率と調査期間

調査対象は、2000年度にF幼稚園に在園した3歳児32名のうち、3年間継続して保護者から有効な回答を得られた22名(有効回答率68.8%)であった。なお、回答者は全て母親であったため、保護者の回答を母親の回答とすることとした。調査は、回答結果から得られた評価の変容をとらえるため、2000年の11月と2001年の11月、2002年の11月の3回行った。

3) 結果の整理

下位の活動項目の発達過程を明らかにするため、それぞれの低位項目の内容ごとに1クラスの園児数に対する○印の数の割合を出し、その割合を通過率として示した(表1)。なお、通過率の区分については津守(1965)の区分⁵⁾に従った。

III 結 果

表1は、2001年度の通過率を基準に、より高い発達を示している項目順に並べなおしたものである。その際、2000年度の通過率を○とし、2001年度の通過率を◎、2002年度の通過率を●とした。そして、3年間に伸びのみられた項目を、○-◎-●で示した。

その結果、

- ・「よういどんの合図に合わせて、かけだす」
- ・「すもうで、子ども同士でふたりずつとりくむ(ふたりで走る)」
- ・「階段を2,3段目から、とびおる」
- ・「決勝点(目的地)までかける」
- ・「片足で、けんけんをしようとぶ」
- ・「でんぐりがえしをする」
- ・「ジャングルジムの上のほうまで、ひとりでのぼる」
- ・「補助輪つきの自転車(二輪車)にのる」

の8項目が、3歳児からすでに80%の通過率を示した。

逆に、

- ・「まりを、つづけて10ぐらいつく」
- ・「かぞえ歌をうたいながら、まりをつく」
- ・「まりつきで、まりを足の下をくぐらせる」

の3項目は、3年間一度も40%の通過率を超えることがなかった。

表1. 乳幼児精神発達質問紙の運動分野での下位項目の通過率の変容

発達年齢 (月齢)	質問項目	3～5歳児の通過率の表容(%)			
		40	60	70	80
36	よういどの合図に合わせて、かけだす				○●●●
36	すもうで、子ども同士でふたりずつとりくむ(ふたりで走る)				○●●●
42	階段を2,3段目から、とびおる				○●●●
42	決勝点(目的地)までかける				○●●●
48	片足で、けんけんをしてとぶ				○●●●
48	でんぐりがえしをする				○●●●
60	ジャングルジムの上のほうまで、ひとりでのぼる				○●●●
72	補助輪つきの自転車(二輪車)にのる				○●●●
54	すべり台を、あお向けにねて、すべる			○	○●●●
60	なわぶらんこに立ちのりして、自分でこぐ			○	○●●●
72	数人以上で、子ども同士だけで、リレーをして遊ぶ			○	○●●●
78	ジャングルジムで、追いかけてっこをする	○●		●	●●●●
54	スキップを正しくする	○●		●	●●●●
72	なわぶらんこをこぎながら、立ったり、すわったりする	○●		●	●●●●
78	子ども同士だけでふた組に分かれて、リレーやすもうをとる	○●		●	●●●●
72	ふたりで向かいあって、ぶらんこをこぐ	○●		●	●●●●
78	低鉄棒で前まわりで、おる	○●		●	●●●●
78	平均台の上で、子ども同士で、おとしくらすする	○●		●	●●●●
72	なわぶらんこに立ちのりして、高くこぐ	○●		●	●●●●
78	ひとりで、なわとびをする	○●		●	●●●●
78	たいこ橋の上からぶらさがって、とびおる	○●		●	●●●●
84	数人の子ともで、野球のまねごとをして、ボール遊びをする	○●		●	●●●●
78	長いなわで、大波小波などのなわとびをする	○●		●	●●●●
84	低鉄棒で足をかけて、さかさまにぶらさがる	○●		●	●●●●
78	まりを、つづけて10ぐらいつく	○●		●	●●●●
84	かぞえ歌をうたいながら、まりをつく	○●		●	●●●●
84	まりつきで、まりを足の下をくぐらせる	○●		●	●●●●

○…3歳児の通過率、◎…4歳児の通過率、●…5歳児の通過率

IV 考 察

上記の手続きにより下位項目のうち、通過率の伸びがみられる下位項目が、すなわち、その発達の過程において、特に重点をおいて指導することが望まれる活動項目であると考えられる。

3歳時期から4歳時期をみると、この運動分野では、3歳時期は、40%以下の通過率だったにも関わらず、4歳時期に70%の通過率を示している下位項目は、

- ・「なわぶらんこに立ちのりして、自分でこぐ」
- ・「数人以上で、子ども同士だけで、リレーをして遊ぶ」

の2項目である。

次に、4歳時期から5歳時期では、通過率の伸びが著しく認められた項目は、

- ・「ジャングルジムで、追いかけてっこをする」
- ・「スキップを正しくする」
- ・「なわぶらんこをこぎながら、立ったり、すわったりする」
- ・「子ども同士だけでふた組に分かれて、リレーやすもうをとる」

の4項目である。これらの下位項目は、それぞれ4歳時期には40%の通過率を示しているが、5歳児には70%の通過率を示しており、伸びが認められた。

また、5歳時期で初めて40%以上の通過率を示した項目は、

- ・「なわぶらんこに立ちのりして、高くこぐ」
- ・「ひとりで、なわとびをする」
- ・「たいこ橋の上からぶらさがって、とびおる」

- ・「長いなわで、大波小波などのなわとびをする」
 - ・「低鉄棒で足をかけて、さかさまにぶらさがる」
- の5項目である。

乳幼児精神発達質問紙の下位項目について、伸びのみられる項目を指導計画に含めることで、その時期に伸びていく可能性を含んだ指導計画の立案が可能になると考えられる。つまり、子どもの発達の過程を把握することで、それぞれの領域ごとにどの時期にどういった活動に重点をおいた指導を行うかがより明確になるのである。

V 今後の課題

保育計画内容ごとにどのような具体的活動が含まれているのかを知ることが、指導計画を作成する上で、有効な手がかりになると考えられる。それ故、本質問紙の下位項目の通過率を幼稚園教育要領のそれぞれの分野にどのようにおきかえ、よりよい指導計画を立案していくかが今後の課題である。

¹ 文部科学省(1997.11)「時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方に関する調査研究協力者会議」、『時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方について—最終報告—』, (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shingi/index.htm), 2004.1.12. アクセス.

² 『幼稚園で預かり保育』2002.6.28, 朝日新聞・朝刊.

³ 平成10年12月14日文部省告示174号『幼稚園教育要領解説』, p.193, フレーベル館, 1999.

⁴ 同上著3), p.204.

⁵ 津守 真・磯部景子『乳幼児精神発達質問紙3才〜7才まで』, 大日本図書, 1965.